

平成27年度第2回ニセコ町総合教育会議 議事録

日 時 平成28年3月28日（月曜日）
午後2時00分開会～午後3時05分閉会

場 所 ニセコ町役場第二庁舎大会議室

出席者 片山健也町長、日野浦あき子委員長、川原与文委員長職務代行者、
松田勝美委員、下田伸一委員、菊地 博教育長

会議概要 以下の通り

1 開会、2 町長挨拶

片山町長：事務局で教育大綱案を整理したので今回協議したい。案の冒頭に「ニセコ町教育大綱の策定にあたって」という文章をまとめ、教育に対する基本的な考え方を記した。先般、近藤小学校卒業式に出席したが、過去ニセコ町で進めてきた効率性や規模の論理といったことがはたして良かったのか、という思いを抱いた。近藤小学校は、外国人住民も含め地域のコミュニティがしっかり機能しており、町外からの視察者などからも高評価である。地域住民が地域の子どもを自然に育てていることが感動的であり、競争や効率を重視する欧米型に日本社会が転換してきた今日、大きなゆがみが社会にある気がする。このような中、教育委員会という第三者が入った機関が学校教育に責任を持ち、これにより、首長から独立し権力の介入を許さず中立的な教育を行うという、教育委員会制度の理念はすばらしい。こうした趣旨を生かしつつ、選挙で住民に選ばれた首長が何も言えないのもおかしいのではないかとしたことにより、先般制度に変更が加えられた。教育大綱の策定や総合教育会議において、首長としての考え方を述べるができるのは歓迎である。本日は、これまでの議論をもとに大綱案をまとめたので、忌憚の無い意見をいただきながら、最終案にまとめたい。

3 議事

片山町長が議長として議事を進行。

(1) ニセコ町教育大綱の策定について

事務局から、資料（1 検討経過、2 案（最終案））の内容を説明。ニセコ町教育大綱の最終案について、全体を通した内容の説明を行うとともに、前回会議における協議を受けて追記、修正した点を補足説明。

片山町長：前回かなり具体的な議論を行い、その結果を特に施策大綱の項目に入れ込んでいるので、確認いただきたい。個々の施策については教育振興基本計画などにおいて具体化されると思うが、最終案全体の内容について

協議いただきたい。内容を補足すると、基本大綱には「相互扶助」のキーワードを加えた。また、施策大綱の「教育格差を埋めるための支援の推進」はニセコにとっては重要である。このほか必要な施策は網羅されたと思う。

日野浦委員長：全体的にすっきりしている。第5次総合計画の内容もしっかり反映されているほか、「ニセコ高校（町立高校）の振興」が施策大綱に加えられたので良かった。高校振興については、ニセコ高校振興対策会議で別途議論しているところでもある。

片山町長：ニセコ高校の振興については、教育委員会が主体となって振興対策会議により学校の将来像を検討している。近隣の農業高校などとともニセコ高校の必要性を理解しつつ、振興策について検討を重ねる必要があると考えている。このほか、施策大綱の「教職員の資質向上」について、町として平成27年度までの3カ年で取り組んだ校長会教職員研修事業は、教職員の研修、研鑽に役立ち、一定の成果があった。今後も必要に応じて検討していくとよい。

菊地教育長：施策大綱の「環境教育の推進」について、環境モデル都市として各学校の工夫においてこれまで取り組んできたが、今後は小中一貫教育のプログラムの中に取り入れて進めていきたい。これに関連し施策大綱に入った「エコスクール化の推進」についても、今後具体的な施策に移していきたいが、町長が目指すエコスクール化のイメージを伺いたい。

片山町長：文部科学省の制度としてのエコスクールはある。私が目指すのは、もちろんこれもあるが、ニセコ町が環境モデル都市として環境のまちづくりを進めている中、小さいうちから環境やエコロジーに関して学校のカリキュラムにおいて触れられるとよい。できることから、例えば、教室で使用している電力を見える化してみんなで節電しようといった取組や、みんなの家のエネルギー家計はどうなっているかといった調査の実施などをイメージしている。緩やかながら教育委員会から学校へメッセージを出してもらい、一步一步階段を登るように進められるとよい。教育委員会の中でもこうしたことを検討して欲しい。

菊地教育長：この考えをもとに、子どもの発想を生かした取組を段階ごとに進めていきたい。

片山町長：環境省でも色々な補助メニューが用意されている。電力の見える化に関し、スマートメーターを導入できるものもある。また、ニセコの自然や尻別川の環境を体験できるラフティングなども、事業者の協力が得られれば実施できるのではないかな。

下田委員：（事業者の立場として）ラフティングは、これまで小学校PTAの親子レクレーションとして行ったことがある。費用もかかるので、5年生くらいの時に、必ずというわけではないが実施するような流れとなっている。

ニセコの王子発電所付近からニセコ大橋までのちょっとした体験（川下り）も行っており、その中で発電所に関する物語も説明している。公共施設の電力供給もこの春から新電力に切り替わることもあり、子どもたちが王子発電所を見学できれば、環境やエネルギーについてより身近に感じることができるのではないか。

日野浦委員長：子どもたちが実際に見て体験することで分かることがある。そうしたことから、身の周りの節電や節水などにもつながる。身近に、自分で感じることで、子どもの発想は広がっていく。

片山町長：その通りであり、また、子どもたちの意見を聞くことも必要。まちづくり基本条例制定10年を記念した検証会を行った際、参加した子どもから学校に整備した遊具について「何故あのような高学年が使えない遊具を造ったのか。私たちの意見を聞いていない。」といった意見が出された。整備当時は子どもたちの意見を全く聞いていなかったと思う。まちづくり基本条例では、まちづくりへの子どもの参加権を規定しており、そうしたことから子どもの意見を聞くことは大切。まさにこれが政治教育でもある。子どもの意見ということを見ると、子どもたちのヘリコプター体験搭乗の事業を続けているが、その評価はどうか。特に子どもたちの評価、成果はあるか。

菊地教育長：社会教育事業として取り組んでいるが、子どもたちは怖がりながらも上空から熱心に郷土を見学している。空から自分の住む町を眺めるということが大人でも一生に一度あるかないかという貴重な機会であり、子どもたちもとても楽しみにしており、評価を得ている。

松田委員：グループ分けにより搭乗した子どもの住む地域を特に飛行したりしており、子どもにとってはとても良い体験になっている。確かに費用はかかるが、それを考えても大変良い取組である。

菊地委員長：北海道でこの事業を実施しているのは、今やニセコ町と滝上町だけであると思う。ニセコ町では学校の体験学習に位置づけ、貴重なプログラムとして事業を継続し成果を重ねてきている。

片山町長：今後は教育委員の方々も搭乗されてはどうか。そのほか最終案全体を通して意見は無いか。

川原委員：今回の最終案はフレーズも短く、よくまとまっていて分かりやすい文章になっている。特に冒頭の「策定にあたって」は分かりやすく読みやすい。ただ、この文章中3段落目の最後の一文だけ表現が難しいので、分かり易くする意味で手を加えるとよいのではないか。文章の内容自体はすべて大切なことばかりだと思う。

片山町長：ご指摘の部分を工夫したい。

下田委員：基本大綱について、人材育成の視点から、この中で自治創生などの観点からもニセコ町の教育がどのへんまでのビジョンを見据えているのか。

ニセコの子どもたちに対して「さあ羽ばたけ」なのか、「将来はニセコに戻ってきて活躍してほしい」ということなのか、こうした意味を入れ込むことは可能か。施策大綱にニセコ高校の振興について盛り込まれていることもあり、「戻ってきて活躍してほしい」といったメッセージ的な言葉を基本大綱に入れると、ニセコならではの内容になるのではないかと思うが。

日野浦委員長：親としての立場から言うと、ニセコに戻ってきて欲しいという希望はあると思うし、下田委員の考えもよく分かるが、子どもの人生は子どものものであるということを考えておく必要がある。

下田委員：「相互扶助」や「郷土学」など地域愛に満ちた教育をせっかく進めていても、過疎化や都市への人口集中など地域が寂れる一方である現状を見るに、教育委員会などが干渉することではないかもしれないが、こうした地域教育ができるのは実際は中学生くらいまでではないかという悩ましさを感じる。

日野浦委員長：コミュニティ・スクールによる教育、地域づくりが定着していけば、子どもの気持ちのありようも変わっていくのではないか。地域愛、郷土愛を自然と育むようになるのではないかと期待している。

片山町長：下田委員の指摘はたいへん悩ましい問題だと思う。ニセコで頑張りたいと思う人の希望をかなえる仕組み、雇用のあり方などをまず考えていく必要もあるだろう。

川原委員：未来を担う若者に、ここに必ず戻ってきて欲しいといったような直接的な物言いや表現はできないだろうと思う。むしろ自身の希望する所へ羽ばたいて行って欲しいといったところが、親の立場からは思うところ。いずれにしてもたいへん難しい問題。

片山町長：例えば、愛国心が他人から強制されて育つものではないことと同様だと思う。環境施策や自治創生の取組など、ニセコ町がどれだけ色々な取組をしているのか、また、他の自治体からも注目されていることなど、ニセコの子どもたちはあまり知らない。まずそうした身近な地域の情報を子どもたちに伝えていくことにより、地域に対する誇り、ニセコプライドを育むことを進めていくべきだろう。

松田委員：まずは、有島記念館や一般廃棄物処理場、米の雪氷貯蔵倉庫など、町の主要な施設を見学し、当事者から説明や物語を聞くなどして、子どもたちが自分の町の取組をしっかりと認識し、理解することが必要。

菊地教育長：現在導入の検討を進めている小中一貫教育での9年間の教育の中に、英語の力をつける取組やふるさとニセコを知る取組の導入を考えている。こうした学びの中で「ニセコにはこんなところもあったのか」などと感じ、ニセコを一層好きになる子どもを育てていきたい。その上で、将来ニセコに戻ってきたいという子どもも増えれば嬉しいし、これを誇りに外

で活躍したいという子どもが育つ力にもなるだろう。

片山町長：ニセコのことを知る授業というのは現在あまり無いようなので、ぜひそうした取組を進めるとよい。

松田委員：農業などニセコならではの教育を考えると、例えば、小学校の田植え体験などを有島武郎の物語のある有島地区でできるとよいのではないかと。そうした工夫も必要だろう。

片山町長：他に意見は無いか。（特に無し。）

片山町長：その他特に意見がなければ、ニセコ町教育大綱の内容はこの通りとしてよいか。（異議無し。）それでは、先ほど指摘のあった冒頭の文章を推敲し一部修正するほか、この内容で最終取りまとめとさせていただきます。

4 その他

片山町長：今後の総合教育会議の開催予定について説明をお願いします。

事務局：大綱策定の協議はこれで終わるので、法律に規定する協議、調整事項が生じた段階で町長が招集する。今のところ年に数回程度の開催を見込む。

片山町長：今回策定する大綱を基本に、懸案事項などの意見交換についても今後行っていきたい。このほか、本日は以下何点かを私からお話ししたい。

<地方財政の現状について>

片山町長：地方創生などにおいて国は地方が大事だと言っているが、地方財政の面では実際は逆の状態となっている。例えば地方交付税の算定では、トップランナー方式として施設管理や事務事業の民間委託化の取組を国が評価するかたちをとろうとしている。ニセコは除雪などを委託化しているが、こうした民間委託化が進まない自治体に対しては、国は地方交付税を減らすことを検討している。また、国の制度見直しにより介護報酬を減らした一方、国からの支援も減ってしまった。このせいで介護の現場は大変な状況となっている。国は介護の現場は大事だと言うが、国でやっていることは全く違うのが地方財政の現状である。幼児保育の現場も同様。国の制度をあてはめると3歳以上の保育料が大幅に増えることとなるが、ニセコでは保護者の負担が大幅に増えないような配慮、対策をしている。これに要するお金は町が負担しているのが実態。こうした状況を理解願いたい。

<教育施設の整備について>

片山町長：財政運営面を考え、施設整備計画の一覧表をつくって町として管理している。この中で、整備のための財源として過疎債の活用が鍵となる。過疎債活用のためには過疎地域として国の法律に基づく指定が必要となり、

人口の動態が判断要素となる。ニセコ町は人口が増加しているのですが、このままでいくと過疎地域の指定から外れる可能性が大きくなるが、先般の見直しでは政権与党が「過疎地域の卒業生を出さない」との判断から、ニセコも過疎地域として存続した経過がある。ただ今後は、平成32年度の次の期限を前に、過疎債を活用できなくなることも頭に入れながら対策を考えているところ。教育施設では、近藤小学校改修やニセコ高校体育館耐震改修などを控えているが、こうした状況や町全体の状況を考えて今後議論いただければ有難い。また、子どもの数も今は増えているが、15年後はどうかといったことなども考えていく必要がある。昨年視察で訪れた埼玉県のある学校の校舎はプレハブだった。将来子どもが減っても対応できる構造で建てているとのこと。建築技術も日進月歩であり、こうした新しい情報も得ながら教育委員会でも議論いただきたい。

<その他>

片山町長：教育予算の編成方法について、総枠での予算配分など、色々なやり方を今後考えていきたい。このほか、町教委としての独自性を発揮し、独自の制度設計など、前例にとらわれず自由な議論をしていっていただきたいと思う。

5 閉会

菊地教育長：ただ今の片山町長からのお話に関し、文科省でも市町村教委の独自性を重視する内容のコメントを出しており、今後、町教委としても独自性を出した教育を進め易くなると考えている。

片山町長：京都では子どもたちに配布される社会教育ハンドブックに企業が広告を載せることで発行を応援したり、小学校の中にコンビニがあったりするなど、さまざまな先進的取組がたくさんある。これら全国での取組も参考に、ニセコの教育を進めていただきたい。ニセコ町教育大綱についてはこの内容で公表し、進めてまいりたいと思うので、今後よろしくお願いいたします。

終了